

|      |        |    |    |     |     |
|------|--------|----|----|-----|-----|
| 科目名  | 吹奏楽の歴史 | 形態 | 講義 | 開講期 | 秋学期 |
| 担当教員 | 上田 仁   | 単位 | 2  | 年次  | 2   |

### ＝授業科目の目標＝

黎明期から現代までの吹奏楽の歴史を辿り、演奏の目的や新しい楽器の誕生による編成の変化を学習する。現在活動中のバンドのサウンドの違いを感じ、演奏者、教育者として必要な知識を体験的に深める

### ＝履修の条件と学習の方法＝

講義内容を理解出来る言語能力を備えていること。

授業中や映像、音源の鑑賞中は受講者全員が集中出来るように私語はしない。

授業は講義、板書、プリントや資料読解、DVD、CD鑑賞によって進める

### ＝授業内容＝

吹奏楽と一言で言ってもその編成は十数人から 100 名に及ぶ。

オーケストラを弦楽器が主体の楽団と考えるならば、吹奏楽は管楽器が主体となる楽団と言える。

管楽アンサンブルや室内楽、ジャズバンドなども吹奏楽と言えないこともないが、双方の違いは指揮者が必要かということになる。

吹奏楽の中にはブラスバンド（金管バンド）、シンフォニック・バンド、コンサート・バンド、ウインド・アンサンブル、ウインド・オーケストラ、マーチング・バンド、など多数の形態が含まれており、その編成や目的は様々で、昨今の日本では吹奏楽コンクールに勝つことを目的としたコンクールバンド、という呼び名も聞かれるようになった。

本講座ではブラバンという愛称が付けられるまでに親しまれている吹奏楽の歴史を、どこで、だれが、なんの目的で、どのように、というポイントを押さえ、映像や音資料を使いながら体験的に学習し、その功罪を考える。

### ＝成績評価の方法と評価の基準＝

出席状況、授業に対する積極性、学期末の試験の成績を総合的に評価する。

### ＝その他＝

授業に対し準備が必要なものがある場合は授業内で指示する。